

異文化からのメッセージ

～ボーダーが重なり合う社会へ～

7月6日(土)山田小学校にて、国際理解出前講座「異文化からのメッセージ～ボーダーが重なり合う社会へ～」を開催し、山田校区の住民 131 名が参加しました。

講師は、夢前町出身の赤錆千春さん。特別支援学校の教師として働いた後、2018年からJICA海外協力隊の活動でエクアドルに滞在し、エクアドルで障害者教育に従事されました。帰国後は、スクールカウンセラーとして勤務されています。



Buenos días.(ブエノス・ディアス):こんにちは!

講座は、スペイン語のあいさつから始まり、自己紹介と、エクアドルの地理、歴史、人々について説明を受けました。エクアドルは面積が日本の 10 分の 1 ほどの小さな国で、日本のような四季こそありませんが、海に面するコスタ、アンデス山脈が縦断する中央一帯のシエラ、内陸側でアマゾンのあるオリエンテ、そして珍しい動物たちが独自の生態系を保つガラパゴス諸島により成り、豊かな自然を擁しています。

障害児教育に携わる現地教員たちへの伝達やサポートの役割に加え、一般校の教員や保護者の教育相談にも携わりました。異文化の中に一人で孤独を感じた時は、ホームステイ先のご家族や、共に海外協力隊として各地に派遣されている仲間が大きな支えとなったそうです。そして、JICA の活動を通して色々な国の人と接し、旅する中で、自らが生まれながらの国籍や性別や人種といったものだけではない多様なボーダーを持ち、そのボーダーがあるからこそ、たくさんの人と対話し、知ることができることに気づいたそうです。

多文化共生のキーワードは「変化する」

これから多様化していく日本社会が、さまざまな文化を持つ人と共生していく社会を実現していくためのキーワードとして、「変化する」を提案されました。

「ボーダーレス」ではなく「ボーダーがある」ことを意識することで、自ら新しい文化へと踏み出し、吸収し変化することに繋がり、国際交流に留まらず、多様性を受け入れて世界を広げていくことができるきっかけになることと思います。



多くの地域の方に参加していただくことができました。今回の講座がこれから山田校区の明るい未来の一助となりましたら幸いです。